

秋田・岩手豪雨・土砂災害に関する緊急災害調査を行いました(2013/8/14-15)

テーマ：緊急災害調査

場所：秋田県仙北市，大館市，鹿角市，岩手県花巻市，雫石町など

平成 25 年 8 月 9 日，日本海から湿った空気が流入し大気が不安定となり，秋田・岩手県各地で観測史上最大の雨量を記録しました。この豪雨に伴い，洪水氾濫，斜面崩壊，土砂災害などによる被害が秋田・岩手県の各地で生じました。秋田県仙北市では，大規模な斜面崩壊とそれに伴う土砂流動が発生し，6 名の方が亡くなりました。また，岩手県雫石町では，豪雨による土砂崩れで道路が寸断され，多数の孤立集落が発生しました。秋田県大館市，鹿角市や岩手県花巻市などでも土砂災害や洪水により多くの被害が出ました。

災害科学国際研究所では本豪雨・土砂災害を受け，緊急災害調査を 8 月 14 日および 15 日に行いました。緊急災害調査団は，今村文彦教授（災害科学国際研究所副所長），Jeremy Bricker 准教授，今井健太郎助教，呉修一助教（以上，災害リスク研究部門），森口周二准教授，Carine Yi 助教（以上，地域・都市再生研究部門），芦野有悟准教授（災害医学研究分野），久利美和講師（情報管理・社会連携部門）と多くの部門の教員で構成され，学際的な調査メンバーとなりました。

調査では，本豪雨災害に伴う道路，鉄道，橋梁，河川堤防などのインフラ被害状況や家屋等の浸水状況，土砂災害の被害状況を明らかにし，これらのメカニズムを解明するための調査を行いました。また，地域住民への避難指示・警報の発令状況および避難実施状況を確認するとともに，避難住民の健康状態（公衆衛生）に関する調査なども行いました。更に，秋田県仙北市の災害対策本部を訪れ，被害状況や現在の対応状況に関して様々な実態や課題について話を伺い，住民の避難に使用された施設を視察し，当時の住民の避難状況や対応がどのようなであったかの聞き込み調査なども行いました。

今回の豪雨・土砂災害に関する学際的な調査から得られた情報やデータの解析を進め，山形豪雨災害調査と合わせて，現在の治水・治山の問題点を明らかにし，今後の東北地方しいては日本・世界の豪雨災害被害の軽減に向けた様々な有益な情報や各種提言を国内外に発信し，社会に還元していく予定です。



大規模な斜面崩壊が発生した斜面（秋田県仙北市）



土砂に押し潰された車両（秋田県仙北市）



民家裏の斜面崩壊（岩手県花巻市）



田沢湖線（秋田新幹線）での土砂崩れ（岩手県雫石町）



洪水痕跡が残る竜川の様子（岩手県雫石町）



引欠川の破堤を土嚢で応急対応する様子（秋田県大館市）



洪水により破壊された矢櫃橋（岩手県雫石町）



河川湾曲部の洗掘の様子（岩手県雫石町）



雨水流出による道路浸食の様子（岩手県雫石町）



火山性堆積物および河川堆積物の崩落（岩手県雫石町）